

平成 31 年度 科目名 (国語表現)

1 対象年次、単位数、使用教科書

2～4年次 3単位 教科書 「国語表現」(教育出版)

2 科目の目標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

基本的な事項の理解に加えて、内容の発展的な問題 (文章作成) の達成度を評価する。

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

試験を主資料とし、レポートの評価およびスクーリングを考慮して総合的に行う。

レポート・試験のいずれにおいて評価 2 以上を得、スクーリングにおいて規定時数を満たした場合に、3 単位を認定する。

5 試験範囲と試験による評価基準

R 1～R 3 の範囲で 7 月試験、R 4～R 6 の範囲で 10 月試験、R 7～R 9 の範囲で 1 月試験を実施する。評価は 30 点以上を合格とする。

なお、29 点以下については再試験とし、その場合も 30 点以上を合格とする。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングは生徒の質問に個別に対応することを基本とする。

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。

R	項目	内容	教科書	時期
1	文章表現の基礎 手紙	表現力を確かなものにするために、正確に書く力、文章を理解する力、事柄を言葉に変える力など、基本的な技術を身につける。手紙の書き方を確認する。	P11～ P21・ P94	4月 下旬
2	小論文	小論文の型を確認し、小論文作成を行い、書く力を養う。	P23～ P38	5月 中旬
3	声の表現	声の出し方や話し方を意識することによって、人前で声を出すための基本や分かりやすい話し方の基本を学ぶ。	P39～ P50	6月 月上旬
4	人とつながる言葉	表現の創作を通して、言語生活の歴史や社会性を学ばせ、ことばの性質やことばと人間の関わりについて学ぶ。	P51～ P60	7月 中旬
5	面接—社会との接点	面接で役立つ話し方、表現を学ぶ。	P61～ P74	8月 月上旬
6	言葉遊びと創作	俳句、短歌、川柳の言語文化にふれ、創作をすることで表現について学ぶ。	P75～ P87	9月 月上旬
7	プレゼンテーション/セルフ・ディベート	説得力のある説明ができることを目的とし、論理的な思考力や表現力を身につける。	P28・29 P101～ P110	10月 下旬
8	メディア・リテラシー 広告	適切な情報の取捨選択について考え、メディア・リテラシーの向上を目指す。	P159 ～169	11月 中旬
9	物語の創作 二次創作を楽しむ	物語の創作をとおして自己を見つめ、表現力を高める。	P149 ～157	12月 月上旬